

ストリートダンスに対する世代間の印象の差

スポーツコミュニケーションゼミナール 1313009 伊集拓斗

1. 研究動機・研究目的

今や日本のストリートダンス人口は 600 万人を超え、野球やバレーボールなどと並ぶものとなっている(ストリートダンス協会, 2016)。その一方で、ストリートダンスの価値が高まっているにもかかわらず、路上で行う練習形態や起源から、否定的な評価を抱かれる場合も多い(清水・岡田, 2014)。また風営法により、ダンスをとまなう営業には都道府県公安委員会の許可が必要で、営業時間も午前 0 時または 1 時までには制限されるなど、ダンスは規制対象に置かれている現状もある。これは世代間のストリートダンスに対する印象に大きな差があると考えられる。そこで、ストリートダンスを実際に踊っている若者のダンスへの印象、そしてその親世代のダンスへの印象を調査し比較する。そうすることにより、世代間のダンスに対する印象の差が生じる要因を明らかにし、今後のダンス文化の振興と魅力の認知拡大につながると考え、本研究を行う。

2. 研究方法

〈調査対象〉 J 大学の 2 年以上ダンスを続けている学生 5 人

学生 5 人の母親

〈調査方法〉 学生 フォーカスグループインタビュー調査

母親 インタビュー調査

〈調査期間〉 学生のインタビューは 2016 年 10 月 3 日(月)

母親へのインタビューは 11 月 3 日(木)に行った。

3. 主な結果と考察

〈学生についての考察〉

ストリートダンスを始めたきっかけについては、高校の友達や大学の先輩、EXILE などのボーカル&ダンスユニットといった第三者の影響が大きく関わっていることがわかった。また、「友達の影響とダンスユニットの影響」のように複数の影響を受けている学生が多かった。大学に入学する前からダンスに興味をもっていた学生のほとんどがストリートダンスに対してプラスのイメージを持っていると推測したが、実際はプラスとマイナスの両面を抱いている学生が多かった。ダンスを続けるモチベーションには人それぞれのものがあったが、全員に共通して言えることは、J 大学のストリートダンス部に所属することのモチベーションと、個人がストリートダンスを続けることのモチベーションをそれぞれ持っていたということである。どちらか片方でもモチベーションがなくなってしまうと J 大学のストリートダンス部でストリートダンスを続けることはできないと考えられる。

ストリートダンスを通して得たものについてインタビューした際には、推測していたよりも多くの返答が返ってきた。そのほとんどがストリートダンスに関わるのではなく、人としての成長に関わることであった。道端で踊っている、いわゆるストリートダンサーの格好などを見て、怖いというイメージが抱かれがちだが、実はストリートのカルチャーをファッションで表現しているだけであるということを理解してもらいたいという意見があった。

〈親についての考察〉

子供がストリートダンスを始める前のイメージは、「EXILE などを見ていると、入れ墨などを入れておりなんとなく怖いイメージがあった派手な感じ、チャライ感じのイメージがあった」など、主に EXILE などのボーカル&ダンスユニットなどのメディアの影響からマイナスのイメージを持っていた。

子供がストリートダンスを始めた現在のストリートダンサーに対するイメージについて聞いてみると、プラスのイメージに変わったという親がほとんどであった。

4. 結論

学生はストリートダンスを始める前からダンスに触れる機会が親世代よりも多く、理解度も高いということが分かった。若い世代もその親世代も少なからずストリートダンサーに対してマイナスのイメージを抱いているが、若い世代はそういったイメージを抱きつつも、踊ることへの憧れや興味を持っていたことがわかった。ストリートダンスを始めることで、その魅力や人として成長できることを強く実感することができるため、ストリートダンサーとストリートダンスをやっていない親世代との間に大きな印象の差が生まれることとなると考えられる。今後の課題として、ストリートダンスを通して得られるもの、ストリートダンサーが何を目的として練習をしているのかのもっと認知してもらうこと。並行してストリートダンスの歴史や文化について認知してもらうことが重要であると考えられた。

【卒業論文の執筆を終えて】

この度は、本研究を作成するにあたり、幾度に渡って丁寧な指導をしてくださった伊藤先生に深く感謝いたします。また、パソコンが壊れるアクシデントに見舞われ多くの問題が発生したが、その度に僕を助けてくれたゼミ員の渡辺君、僕の卒論を最後まで細かくチェックし指摘してくれた岡本君、本当にありがとうございました。そして、協力していただいた 10 名にも心より感謝の意を表します。